

大空に翔る

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

地区協議会だより



平成29年度ジュニア・リーダースクール

平成29年度ジュニア・リーダースクール(村山地区協議会)



スポーツ少年団認定員養成講習会
兼スポーツリーダー養成講習会(最上地区協議会)



置賜地区スポーツ少年団リーダー研修会(置賜地区協議会)



第44回日独スポーツ少年団同時交流受入事業(庄内地区協議会)

新しい年を迎え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催まであと二年となりました。「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」という、スポーツ少年団理念の一つに基づき、平成二十九年度から始まったいろいろな社会貢献活動。その一つ「全国一斉清掃活動」を各団の年間計画に入れて実行し、みんなで盛り上げて行きたいものです。

平成四年本県で開催された「べにばな国体」から二十五年が経過しました。県内にもプロチームのサッカー「モンテディオ山形」、バレーボール「アランマーレ」、バスケットボール「山形ワイヴァンズ」が次々に誕生し、県内のスポーツをけん引しています。

子どもたちは大きな刺激を受け、一人ひとり自分の夢・目標を心に描きながら実現に向け、頑張り始めた子も多いと思います。まずは、日ごろの活動を休まず、「こころ」と「からだ」を育みながら、自分に合ったスポーツスタイルを作ってくれることを期待します。

さて、昨年三月に本県スポーツ少年団の指針となる「スポーツ少年団指導・育成の手引き」を作成し、登録単位団及び有資格指導者全員に配布しましたが、活用されているでしょうか。手元において是非活用してください。

「全国一斉清掃活動」を
みんなで

山形県スポーツ少年団
本部長 村田 久忠

第四十八回東北ブロックスポーツ少年大会 第五十三回山形県スポーツ少年大会

山形県スポーツ少年団置賜地区協議会
指導者協議会 会長 森 和也

八月三日(木)から五日(土)までの二泊三日の日程で、山形県飯豊少年自然の家を会場に、標記大会が開催されました。東北ブロックスポーツ少年大会には東北各県から二十名、山形県スポーツ少年大会には県内各地より六十九名の参加があり、指導者は県の活動委員、各県の引率指導者を始めとして多くの指導者、リーダーから協力を得ました。



初日は、これからの活動に緊張していた参加団員も、開会行事の練習をリーダー会と進めているうちにだんだんと打ち解けていきました。スポーツ活動や共同生活を通して、スポーツ少年団としての自覚と誇りを高め、スポーツ少年団活動に意欲的に取り組む姿勢を養うことを目的に活動が始まりました。アイスブレイクから交流活動が始まり、県大会は七班、東北ブロック

ク大会は二班編成で活動を進めました。班別ミーティングで各自の自己紹介の後、班毎の班旗を作成して、班の仲間作りへと活動を進めました。夕食後は、野外活動としてナイトハイクを予定していましたが、昨今の自然環境により、施設周辺の狭い範囲の中で宝探しをせざるを得ませんでした。仲間作りや食事の仕方の面で、少しまとまりが遅れている班も見受けられましたが、一日目を無事終了できました。二日目は、交流活動として川での活動を企画しましたが、川の水量が多く、危険と判断して川での活動を中止し、班別対抗レクリエーションを行いました。午後からは、夜に行われるキャンプファイヤーでの出し物の企画やトーチ棒作りをして、キャンプファイヤーを素晴らしいものにすべく班毎にまとまりを見せながら準備を進めていきま



した。野外炊飯は、包み焼きピザで班毎に一人ひとりが生地から作成していただきました。難しく生地作りに大変苦労して時間もかかりましたが、何とかピザを美味しくいただきました。夜はキャンプファイヤーです。東北ブロック大会の中・高生が中心となつて県大会の小学生をまとめ、中・高生の班が出し物を披露し、大変有意義で充実したものになりました。こうした時間を共有できたことは、参加団員のこれからの活動に生きてくるものになったと考えます。二日目までの生活を通して班毎のまとまりも生まれて、各活動に生かされてきていると感じました。また、食の細かい小学生が多く、健康面などの配慮が必要で難しいところもありました。



最終日は、一日目に始めた班毎の旗を完成させて記念撮影をしました。班毎にまとまりもできて団員各位が積極的に参画している姿が見えました。どの班も独自性がある素晴らしい旗を完成させ、立派な班旗となりました。最後には参加者全員が感想文を書きました。閉会式で中・高生の感想を二

つ披露してもらい、短い三日間の大会を無事終了することができました。



大会全体を通して、天候にも恵まれ、無事に全日程を終了できました。ただ、東北ブロック少年大会への本県参加者が一名だったので、単位の指導者に働きかけて、リーダー育成を推進していく必要性を痛感しました。また、魅力ある大会にするには活動内容にも工夫が必要であり、十分に議論して、プログラム作成に当たりたいと感じました。

置賜地区が大会を運営するのは久しぶりでしたが、関係各位の絶大な御支援・御協力をいただき、最後まで運営することができました。目玉になる活動として川遊びを企画しましたが、川の水量が多くて断念したところでありました。振り返りを行い、次に企画する際に生かしていきます。最後になりましたが、今大会に御協力頂きました関係各位に心より感謝を申し上げます。大会へのまとめにさせていただきます。

平成二十九年山形県スポーツ少年団指導者育成母集団研修会
 幼児期からのアクティビティチャイルドプログラム(ACP)都道府県普及促進研修会

山形県スポーツ少年団置賜地区協議会

会長 井上道雄

十一月十八日(土)、飯豊町町民総合センター「あくす」及び飯豊町町民スポーツセンターを会場に標記研修会が行われました。

午前は、飯豊町町民スポーツセンターを会場にACP実技講習が、瀧澤孝次氏(米沢市)を講師に迎えて行われました。瀧澤氏はACP講師の資格を昨年取得され、スポーツ少年団認定育成員の資格もお持ちです。

実技講習は、幼児や小学校の児童が夢中になって遊べる「運動遊び」を研修させていただきました。

まずは、ボールを使用して「つく」、「投げる」、「捕る」、「転がす」、「蹴る」等の運動を一人または二人組になって行いました。転がす運動では、二リツトルのペットボトルに半分ほど水を入れてボーリング



を楽しみました。中々ストライクにはなりませんでしたが、身の回りにある物を使ってもしっかり楽しめるものだと思います。

身の周りにある物では、新聞紙も使いました。新聞紙を細長く丸めて剣にしてみたり、丸めてボールを作ったりしてゲームを楽しみました。最後に鬼遊びをしました。



鬼遊びといえども、様々なやり方があり、ルールなどを工夫してやるのが大切だと教えていただきました。

午後はACPの理論編を兼ねて指導者・育成母集団研修会が、飯豊町町民総合センター「あくす」で行われました。講師は東京学芸大学准教授の佐藤善人氏です。佐藤氏はACPの第一人者で、日本体育協会機関紙「スポーツジャパン」ではACP記事の監修などを行っており、昨年度の山形県ACP研修会の講師でもありました。

演題は「元気がいっぱい運動・スポーツする子どもを目指して〜アクティビティチャイルド・プログラムの活用〜」と題して、幼児期からスポーツの楽しさを味わわせるための「運動遊び」の必要性について話していただきました。

子どもの身体活動の必要性、子どもの体力・身体活動の現状、ライフスタイルの問題点、元気な子どもを育むための方策といった項目で、詳しく理論的に講演していただきました。改めて、幼少期から、運動好きを育てることの大切さを実感させられました。

研究討議では、高島町の中川広幸氏と庄内町の齋藤雅志氏から実践発表をしていただきました。

中川氏は「遊びからの体づくり」と題し、小さい子どもたちを対象としてACPに基づいた運動遊びの実践をビデオで紹介していただきました。

その実践では、大きさの違うボールでキャッチボールをしたり、様々な体勢からダッシュして旗を取ったり、友達の上をジャンプしたりする様子を見ることができました。それらは、「調整力」や「瞬発力」などの運動能力を高める目的をもって運動しているということでした。また、競い合う運動では、体中に着けた洗濯ばさみを取り合う遊びが紹介されました。園児が相手の洗濯ばさみを取ろうと夢中になって体を動かしていたのが印象的でした。

齋藤氏からは「幼児期におけるスポーツ少年団活動の在り方(その方向性をさぐる)」というタイトルでの発表がありました。



ACPを

実践する意義、

幼児期の運動

指導の基盤と

なる考え方、

幼児期の運動

発達特性に

応じた体得させたい運動遊び、

実際の指導に当たっての留意点について、

経験に基づいて発表されました。

未就学児も小学生と一緒に活動させ、

真似をさせながら遊ばせていくと、

小学生と同じ技術ができるようになることなど

と紹介していただきました。

ビデオでは、園児が楽しく運動遊びをしながらも

様々な運動技能を身に付けていく様子

を見ることができました。

これらの実践発表について、

助言者からは素晴らしい実践であると賞賛の

言葉をいただきました。

現在の子どもたちは

スマホやゲーム機といったもので遊ぶことが多くなっ

ています。昔の伝承遊びや空き地での

三角ペーシなどの野球遊びなどを

する子どもを見ることはほとんどありませ

ん。スポーツをする子どもとしない子

どもの二極化が言われて久しいわけ

ですが、なかなか課題の解決には至って

いません。今回の研修会をきっかけに、

ACPを各単位スポーツ少年団として

も取り入れるなどして大いに活用し、



山形県スポーツ少年団 リーダー会紹介

スポーツ少年団活動は小学生だけの活動と思われがちですが、実は中学生、高校生、大学生になっても活動を続けることができます。その仕組みを知らなかった、部活動が忙しくて積極的に団活動に参加できないといった理由で、中学生以上の団員が少ないというのが現状です。しかし、スポーツ少年団活動というのは、各競技の専門技術を伸ばすというだけでなく、

スポーツを通して豊かで健康的な心と身体を成長させる場でもあります。スポーツ少年団では、中学生以上の団員をリーダーと呼んでいます。中学生になつてからも、小学校で取り組んできた活動に携わりたい、将来はスポーツに関わる仕事に就きたい、また、指導者等になつて生涯を通してスポーツ活動をしていきたいといった理由をもって活動している人がいます。

山形県にはこのような様々な目的をもった人たちが集つて構成された、山形

県スポーツ少年団リーダー会という組織があります。山形県内で団員登録をしている高校生から二十二歳までの人なら誰でも参加することができます。また、現在は二十三歳以上



になり社会人となつてもアドバイザーとして活動に協力してくれています。リーダーという存在にあまりなじみのない人が多い

と思いますが、リーダーは指導者とは区別されており、指導者と団員を繋ぐ役割を担っています。小学生の団員とも年齢が近いいため、お兄さん、お姉さんのような存在であり、競技においても身近な目標とも言えます。

リーダー会の主な活動は研修会や研究大会の参加、交流会やリーダースクールの運営補助などがあります。

活動範囲は県内だけでなく、北海道・東北ブロックや日本全国と、幅広く活動しています。大人の指導者だけでなく、リーダーが中心となつて活動することも多く、プログラムの企画・運営、会場の準備など、メンバーみんなで責任をもって仕事をするという経験は、普段の生活では感じる事ができない充実感と達成感を得ることができ、こうした活動の経験をリーダーが所属する各団活動に生かし、より良い団活動を行っています。

リーダーには認定制度があり、毎年、県内で中学生を対象に開催されるジュニア・リーダースクールの参加すると、ジュニア・リーダーの認定を受け、更に日本全国の高校生と大学生を対象としたシニア・リーダースクールの参加するとシニア・リーダーの認定を受けることができます。この認定を受ける



と毎年開催されている日独(ドイツ)同時交流の派遣資格を取得でき、団員として国際経験を積むことができます。こうした経験を積んだリーダーは、将来指導者として登録する場合には認定員の資格が付与されます。

リーダーの活動は、単位団だけのものではなく、日本全国、そして世界へ自分の活動の場を広げることができ、スポーツだけでなく、普段の生活に対しての自分自身の視野も大きく広がります。学校生活や部活動だけでは決して味わうことのできない社会経験ができるだけでなく、一生の思い出になるような特別な体験をすることができるといっても、リーダー活動の最大の魅力です。最初は不安や心配なことが多くいかもしれませんが、自信をもって大きな一歩を踏み出して、人生のスキルアップを目指し、一緒に活動しませんか。県内にはジュニアとシニア・リーダーの資格をもつた団員が少ないため、多くの単位団からリーダーや指導者を目指す中学生、高校生が増えてくれることを願っています。

活動内容やその他イベントなどについての手続きや疑問点などは、各単位団の指導者、または山形県スポーツ少年団事務局までお問い合わせください。みなさんと一緒に活動できることを、

山形県リーダー会のみなが心から楽しみにしています。



市町村の動き

寒河江市スポーツ少年団本部事務局

平成二十九年度は、これまで事務局を担ってきた教育委員会から体育協会に移管し運営を行っている。

現在、単位団三十団、団員数七五三人指導者二六三人の登録で、日々活動を展開している。



寒河江市では、スポーツを通して人格形成や地域間の交流促進を積極的に図ることを目指し、体育協会としても競技力の向上やジュニア及び指導者の育成を重点目標に掲げている。毎年、九月には、ミニバスケットボール大会、十月には、野球大会を実施する等、積極的に単位団の交流を図っている。また、十二月には、指導者・育成母集団研修会を毎年行っており、今年度は「ジュニア期に必要な栄養」をテーマに多くの参加者を得て実施することができた。一月には、団員が一堂に会した「体力テスト」と一泊二日の「スポーツ少年大会」を実施し、スポーツの楽しさ、規律、奉仕等のあり方を研修し、お互いの親睦を深めている。

少子化等による単位団の統合など、深刻な問題に直面しているが、地域、保護者、学校との連携強化を図りながら、行政と体協が一体となつて、子どもたちのスポーツ環境の向上とよりよい育成の機会を提供できるよう努力していきたい。

単位団紹介

福原スポーツ少年団（尾花沢市）

代表指導者 三澤 泰博

少子化に伴い平成二十六年に四つの小学校が統合することが決定したことを受け、それまで各小学校区で活動していたスポーツ少年団も統合し「福原スポーツ少年団」として、平成二十三年新たに誕生いたしました。野球部（福原レッズ）・バレー部（福原スノーキッズ）・スキー部（福原スポ少）の三つの部で構成されており、地元尾花沢市からはもちろん、隣の大石田町の団員もおり、総勢三十八名で活動しています。

団員の県内外での活躍はもちろん、卒団生の中には県大会や東北大会・全国大会で活躍した先輩も多く輩出しており、またその先輩たちが指導者となつて後輩たちの育成にも携わるといふ、地元愛に満ちた団体です。

優秀な成績を残すこともスポーツを行う上では大切なですが、それ以上に「だれにでも自ら大きな声で挨拶をする」「仲間を思いやる」など礼節に対する指導も積極的に行っています。

「楽しく、元気に」をモットーに団員・母集団・地域が一体となつて活動しています。これからもスポーツを通して団員をはじめ、母集団及び地域が成長していけるよう今後も積極的な活動を行っていきます。



大蔵スポーツ少年団（大蔵村）

指導者 中島 俊信

大蔵スポーツ少年団は、団員数の減少などにより、平成二十七年四月に単位団を一本化し、複合種目団として新設しました。現在は男子四十六名、女子二十七名、指導者三十二名で活動しています。



その中の大蔵バドミントン部は、今年で三年目を迎えました。現在は男子十四名、女子八名の計二十二名が日々目標に向かって練習に取り組んでいます。試合で勝つこと、技術の向上ももちろん大切ですが、基本理念の「挨拶、返事、マナー」がしっかりと出来る選手への育成をまずは第一に掲げ、指導者、母集団が一体となり活動しています。

今後もバドミントンを通じて、仲間を信じる心、仲間を思いやる心、そして何時も最大限の協力で支えてくれている家族への感謝の気持ちを忘れずにプレーすることの大切さを指導していきたいと思えます。

また昨年からは、他県のスポーツ少年団と練習試合などを開催し、交流をもつことで、何事にも物怖じしない強い心、向上心が育つよう働きかけを行っています。リオオリンピック以降、バドミントン競技が一躍脚光を浴び、ジュニアへの注目が集まっています。活動のレベルをさらに向上させ、団員、指導者、母集団、地域とより一層一体となり、今後も活動していきたいと思えます。

長井市中央柔道スポーツ少年団（長井市）

指導者 宇津木 恵太

私たち長井市中央柔道スポーツ少年団は、創設から五十年以上の歴史をもち、現在は小学生、中学生を対象に火・木・土曜日の週三回長井市武道館で活動を行っています。講道館創始者の嘉納治五郎先生の教えである「精力善用 自他共栄」の精神を重んじ、礼儀作法や練習相手を思いやる気持ちを大切にしています。そして、柔道を通して団員の人間形成が図られるように指導しています。

また、地域に根ざしたスポーツ少年団であり続けるように、市内の少林寺弓道、剣道の各団体とそれぞれのスポーツ少年団を含めて「四道会」として、毎年、合同の活動を行っています。「四道会」の活動では、日頃の鍛錬の成果を発表したり、一緒に食事をしたりにすることによって、地域の同じ武道を行っている仲間との親交を深めています。

このような活動によって、平成二十九年年度の山形県中学校柔道大会個人で優勝・準優勝を果たし、東北・全国中学校柔道大会に出場するという素晴らしい成績を残すことができました。

さらに、「形」の指導にも力を入れており、置賜の柔道形競技大会では、毎年のように入賞者、優勝者を出しています。

これからも伝統を大切にしながらも新しい流れを取り入れ、団員・地域が一体となつて活動できるようにしていきたいと思えます。



「遊s」スポーツ少年団（遊佐町）

代表指導者 富樫 忍

当少年団は遊佐町総合型スポーツ文化クラブ「遊s」との連携を目指して、様々な人々の協力をいただきながら発足しました。

活動のねらいはスポーツに親しむ機会が少ない子や運動が苦手な子のために、気軽に楽しくスポーツを楽しむ場を作り、体を動かすことやスポーツ少年団活動の楽しさを伝えることです。

また二年目の若い少年団であり、知名度は少し低いのですが、保護者の方々からは楽しくスポーツ活動ができるということで大変喜んでもらっています。

今後、遊佐町地域総合型スポーツ文化クラブ「遊s」と連携を図り、体を動かすことの楽しさを伝えていくとともに、町内の各スポーツ少年団のかけ橋となり、横のつながりも大切にしなから活動をしていきたいと思えます。そして何よりも、子どもたちや活動に係る方々が笑顔になれるよう「楽しく」をモットーにしていきたいです。将来、当スポーツ少年団から指導者が出ることを期待したいです。



団員の夢

「兄たちのおかげで」



大石田 J.S.C.
スポーツ少年団(大石田町)
遠藤 佳人

僕が大石田 J.S.C.に入団したのは、小学二年の夏からです。僕には二人の兄がいます。二人の兄もこのスポ少に入っていて、二人とも走るのがとても速く、僕も兄のように走るのが速くなりたいと思い、スポ少に入団しました。最初は練習についていけずやめたいと思う時もありましたが、兄の姿を見ながら、いつか兄のように速くなりたいと思う、毎週がんばって来ました。冬はクロスカントリースキーをしました。陸上競技と違い、スキー板の滑り滑らなくてはいけないので、最初はとても大変でした。でも兄が優しく、時には厳しくアドバイスをしてくれたので、スキーもうまく滑れるようになりました。だんだん楽しくなりました。五年生の大会では金メダルを何度かとることができました。この金メダルをとることができたのは、コーチや兄が応援してくれたおかげであり、とても感謝しています。僕の将来の夢は、スキー選手になって大きな大会に出ることです。僕の兄はクロスカントリースキーで国体に出場することができました。僕もこれから、兄のように大きな大会に出場できるように、中学校に行ってからでもスポ少で学んだことを忘れず、努力を続けていきたいと思います。

「私の将来の夢」



MBSバレーボール
スポーツ少年団(新庄市)
奥山 心結

私はスポーツ少年団活動を通して、学んだことがたくさんあります。特に心に残ったことは、「思いやりの心」です。

バレーボールというスポーツは一人ではできません。チームプレーが大切になります。私ひとりが真剣にやっても絶対に勝てません。六人全員が一つとなって、相手チームと戦わなければならないからです。

チーム全員が一つになるには、メンバー一人ひとりが思いやりの心をもって、次につながるプレーをしなければなりません。

昨年、私が学校から帰ってきたら、おばあちゃんが嘔吐して倒れていたところを見て、何もできなかったことがあります。今も介護施設に入所しているおばあちゃんは、いつも私を見る笑顔でほつべを握ってくれます。だから、早く家に帰ってきてほしいと思うし、これからも思いやりの心をもって、おばあちゃんの役に立つことをたくさんしていきたいと思っています。そして、いっぱい勉強して、将来、医療関係の仕事に就くのが私の夢です。経験を重ね、思いやりの心をもって、たくさんの人たちを助けて、笑顔の輪を広げていきたいです。

「思い出の陸上」



かわにし陸上
スポーツ少年団(川西町)
加藤 美月

私が陸上競技を始めたのは、二年生のときでした。私は元々走るのが好きで、友達と一緒に陸上スポーツ少年団に入りました。

私が本格的な大会に出たのは三年生のときで、その大会は、「山形県少年少女スポーツ交流大会」です。初めての大会はとてもきんちようしました。スタートのときに体を動かさないうように気をつけたことを覚えています。

私の一番の得意種目は百メートル走です。ただ、スタートが苦手なので、どうやったら早くスタートできるかを考えながら練習し、コーチにも教えてもらいました。練習を重ねていくうちにスタートが上手になっていき、大会に出るたびにタイムも縮みました。

五年生になるとリレーのメンバーに選ばれて、バトンパスを何回も練習しました。足が合わなかったりバトンが渡らなかつたりしたときもあつたけど、大会当日には、きちんとバトンを渡せたのでよかったです。

陸上競技を始めてから友達が増え、楽しく練習をすることができるようになりました。これからは少年団で学んだことを忘れずに中学校でも陸上競技をがんばっていききたいです。

「空手から学んだこと」



三川町空手道
スポーツ少年団(三川町)
松澤 稜

ぼくが空手を始めた理由は、仲良しだった友達が入団していたからです。ぼくは「あつ、面白そうだ」と、なんとなく入団しました。初めは、なんとなく始めた空手、だつたけれど、友達と一緒に学ぶことで、いつしかとても楽しくなりました。

ぼくが空手から学んだことは、三つあります。

一つ目は、あきらめないことです。試合中、残り時間が少なくても、最後まであきらめなければ逆転して勝つこともあります。

二つ目は、挑戦することです。これは、先生が教えてくれたことで、試合の対戦相手が、自分より体格の大きい相手でも、まずは挑戦して立ち向かうことがとても大事だと知りました。

三つ目は、達成できた時の喜びです。ぼくが空手を始めた四年生のころは、試合で全然勝てなかつたけれど、あきらめず挑戦し続けたら、だんだんと試合で勝てるようになりました。とてもうれしかったです。

ぼくの将来の夢は、大工になることです。その夢に向かって、空手で学んだ「あきらめないこと」や「挑戦すること」そして、「達成できた時の喜び」を、忘れずにこれからもがんばりたいです。

全国スポーツ少年大会

「全国スポーツ少年大会に参加して」

余目空手道スポーツ少年団 (庄内町)

佐藤 みのり



私は、この少年大会でいろいろなことを学び、たくさんの楽しい思い出を作ることができました。今回が初めての参加で、期待と少しの不安を抱えていましたが、班の仲間やリーダーが明るく話しかけてくれたのですぐに打ち解け、本当に楽しい四日間を過ごすことができました。

普段、接する機会が少ない障害者スポーツの体験は、障害の有無に関わらず楽しむことができるのが大きな魅力だと思いました。チームワークが必要でコミュニケーションの大切さを学びました。サマージャンプは大迫力のジャンプを間近で見ることができてよかったです。キャンプファイヤーはみんなで楽しく踊ったことが印象に残っています。四日目はとても名残惜しかったことを覚えています。四日間という短い時間でたくさんのよい仲間に出会えたことは本当に素敵な体験でした。

この大会は、私を大きく成長させてくれたと感じます。学んだことを活動に生かして頑張りたいです。

庄内町スポーツ少年団

副本部長 石川 武利

第五十五回全国スポーツ少年大会が、全国から二百数十名の団員の参加のもと、新潟県妙高市(国立妙高青少年自然の家)で七月二十八日から七月三十一日まで三泊四日の日程で行われた。

山形県代表団は中学生が三名、高校生が一名、引率指導者の私の計五名が参加した。

開会式は妙高市文化ホールで、「今」そのトキ!! 妙高でひろげる「WA」の翼のスローガンのもと、厳粛な中にも盛大に行われた。

参加者各自が期待と不安をもちながら上越妙高駅に到着。到着までの車中は元気過ぎるほど元気であったが、到着とともに一気にトーン低下。スタッフの案内でバスに乗車。妙高高原の風景に見入ること約五十分。ようやく誰かがあきらめの境地なのか、「よしやるぞ」と気合の入った声を発した。安心安心、もう安心。

全体を通して、中学生三人も頑張ったが、唯一の高校生女性リーダーもよく協力してくれた。将来のリーダー、指導者としての活躍を期待したい。



●日独スポーツ少年団同時交流受入

酒田市スポーツ少年団

本部長 齋藤 勉

七月二十八日から八月一日、酒田市・遊佐町で受入事業が行われました。

初日は郡山市でドイツ団を引き継ぎ、バスで酒田に入りしました。ウエルカムパーティー後、早速ホームステイが始まりました。二日目は「遊佐デー」として町内のお寺で「座禅・お茶体験」



町内のスポーツ少年の団員も交えて「室内雪合戦」を行いました。その後、海水浴、町民花火大会と遊佐の夏を満喫しました。三日目は「ホストファミリーデー」で、ファミリーごとに午前中はパークゴルフ、午後はそれぞれのファミリーごとに分かれて交流を深めました。四日目は「酒田デー」で、「傘福制作体験」「舞娘舞舞鑑賞と花笠踊り」「お土産タイム」と酒田の街を満喫しました。「さよならパーティー」では、ホストファミリーと最後の夜の思い出を分かち合いました。最終日、石巻市の方々に引き継ぎ、全日程を終了しました。

ドイツ団はどの活動にもまじめにそして楽しく取り組み、とてもよい交流でした。あたたかく迎えてくださったホストファミリーや各市町本部員の方々に、スポンサーのみならず、ありがとうございました。

●日独スポーツ少年団同時交流派遣

「必要だと感じたこと」

青葉剣道スポーツ少年団 (川西町)

金子 優奈

私は今回、ドイツ派遣に参加することになった時、とても不安な気持ちでしたが、ドイツに行ったことで気付いたこと、自分に足りないと感じたことなどを知ることができました。

気付いたことの一つとして、「ドイツ人は日本人よりもどんなこともはつきりしている」とドイツスカッシュンで感じました。日本人は良くも悪くも曖昧なところがありますが、ドイツ人の会話や対応を見ていると、思ったことを双方が正直に話し合い、素直に受け止めていて感じました。何もかもを曖昧にすることは直さなければいけないところと感じました。

また、クルンバッハの青少年センターは日本にもあると良いなと感じた施設です。道具や必要な物が施設に揃っているのが、様々なスポーツを気軽に楽しむことができ、沢山の子どもたちが交流できます。私の町にも体育館はありますが、道具が揃っていないため持参する必要がある気軽さには欠けます。そのため、このような施設はとても良いなと感じました。

沢山収穫のあったドイツ派遣は、本当に良い経験になったと思います。



県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰

〔市区町村表彰〕高島町スポーツ少年団
〔表彰指導者〕千葉徹(東根市)、土田桂子(舟形町)、佐藤利浩(鶴岡市)、佐藤俊次(酒田市)

〔感謝状〕金利寛(新庄市)、坂田喜一郎(川西町)

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者

〔優良団〕山一 小おもだかサツカースポーツ少年団(山形市)、寒南ミニバスケットボールスポーツ少年団(寒河江市)、戸沢道場柔友会スポーツ少年団(戸沢村)、高島町トランポリンスポーツ少年団(高島町)、おぐにバレーボールスポーツ少年団(小国町)、致道剣道スポーツ少年団(鶴岡市)、立川バドミントンスポーツ少年団(庄内町)

〔功労者〕渡辺亨(中山町)、渡辺功(中山町)、高橋重義(真室川町)、近雅博(高島町)、梅津和宏(飯豊町)、小林美和(鶴岡市)、成澤武彦(鶴岡市)、齋藤雅志(庄内町)、鈴木雄次(酒田市)

各級スポーツ少年団資格取得者

○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 七コース開催

〔参加者〕五四〇名(内一七一一名認定)

○認定員(日本体育協会公認指導者資格資格保有者) 十六名認定

○認定育成員 二名認定

各種事業

○東北ブロックスポーツ少年大会

八月三日〜八月五日 山形県飯豊少年自然の家(飯豊町)

〔参加者〕団員二十名、指導者等三十一名、リーダー四名

○県スポーツ少年大会

八月三日〜八月五日 山形県飯豊少年自然の家(飯豊町)

〔参加者〕団員六十九名

○ジュニア・リーダースクール
八月十九日〜八月二十日 山形県総合運動公園(天童市市)

〔参加者〕団員十九名、指導者等七名、リーダー六名

○県指導者・育成母集団研修会

十一月十八日 飯豊町町民総合センター「あぐす」〔参加者〕一〇五名

○日独同時交流【受入】

七月二十八日〜八月一日 酒田市、遊佐町

〔ドイツ団〕指導者一名、団員八名

〔ホストファミリー〕五十嵐延之、大滝宗徳、小野寺茂義、大川和彦、池田静香、那須陽生(酒田市)、阿部英子、佐藤千聡(遊佐町)

○日独同時交流【派遣】

七月三十一日〜八月十七日 十八日間

〔団員〕古川かほる(中山町)、松田真優、松田尚大(寒河江市)、金子優奈(川西町)、若公良太(鶴岡市)

○シニア・リーダースクール

八月三日〜八月七日 静岡県

〔団員〕高砂文音(寒河江市)、栗田奈緒(鶴岡市)

○全国リーダー連絡会

九月三十日〜十月一日 東京都

〔指導者〕廣川由香(小国町)

〔リーダー〕古川かほる(中山町)

○北海道・東北ブロックリーダー研究大会

十月七日〜十月九日 秋田県

〔指導者〕廣川由香(小国町)

〔リーダー〕菅野朝日、若公良太(鶴岡市)

○全国スポーツ少年大会

七月二十八日〜七月三十一日 新潟県

〔指導者〕石川武利(庄内町)、〔団員〕五十嵐晴輝、中村柚介、菅原滯、佐藤和(鶴岡市)、佐藤みのり(庄内町)

○全国スポーツ少年競技別交流大会

〔サッカー〕(第四十一回)十二月二十六日〜十二月二十九日 鹿児島県 アパシアンツァーレ山形SC(山形市)

〔剣道〕(第四十回)三月二十五日〜三月二十七日 東京都 寒南剣道(寒河江市)

〔バレーボール〕(第十五回)三月二十五日〜三月二十八日 群馬県 おぐにバレーボール(小国町)

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

〔軟式野球〕七月一日 天童市スポーツセンター野球場 沖郷ホープス野球(南陽市)、山二小ふじかけ野球部(山形市)

〔サッカー〕七月十六日〜七月十七日

秋田県 ○米沢フェニックスサッカー(米沢市)、山形FCジュニア(山形市)、つばさキッカーズ(天童市)

〔柔道〕十二月二日〜十二月三日 岩手県 高橋道場(山形市)、袖崎柔道、楯岡中学校柔道部(村山市)

〔ミニバスケットボール〕三月十日〜三月十一日 秋田県 月岡ミニバスケットボール(上山市)、米沢東部ミニバスケットボール(米沢市)、大山男子ミニバスケット、致道男子ミニバスケット、遷喬ミニバスケットボール、大山女子ミニバスケットボール(鶴岡市)

●編集後記●

「スポーツ振興くじ助成金」により、再びカラーで本紙を発行することが出来ました。掲載された写真も鮮明で、活動状況を感じ取っていただけるものと思います。

特集記事は、置賜地区で開催された二つの大会について投稿いただきました。東北ブロック、県スポーツ少年大会については、置賜地区指導者協議会の森会長、指導者・育成母集団研修会については、置賜地区協議会の井上会長に投稿いただきました。お二人とも、何かとお忙しい中、詳細にわたり活動の報告いただき感謝申し上げます。新年度も、各団が魅力ある活動で多くの団員で活躍していただきたいと思っております。

編集委員

- 委員長 須貝 憲明
副委員長 齋藤 勉
委員 奥山 保雄、高橋 章、須藤 信一
菅野 邦彰、土屋 栄治、佐藤 利浩
廣川 由香、柏倉 政男、鈴木 義紀
那須 陽生

スポーツ安全保険

対象となる事故 団体活動中の事故 / 往復中の事故
保険期間 平成30年4月1日の午前0時から平成31年3月31日午後12時まで



公益財団法人 スポーツ安全協会 山形県支部 〒990-2412 山形市松山2-11-30
(公財) 山形県体育協会内
TEL 023-642-8321 電話受付時間 午前9時〜午後5時(土、日、祝日を除く)

スポーツ安全保険 検索
インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

保険の詳細内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org
●資料請求は、インターネットより受け付けております。



携帯電話から資料請求ができます。